

2-4

褥瘡予防への取り組み

他職種との連携の円滑化

褥瘡予防委員会の発足

施設職員でできること

特別養護老人ホーム 菊かおる園

ケアワーカー 塚田 寛明

東京都豊島区西巣鴨2-30-19

ケアワーカー 波田野 昌代

03-3576-2266

E-mail:kiku@toshimaj.or.jp

03-3576-2264

URLhttp://www.toshimaj.or.jp/s_kiku/index.html

今回の発表の施設
またはサービスの
概要

豊島区社会福祉事業団として平成17年度より自主運営になる
旧中仙道沿いに立地され、近くにはとげぬき地蔵尊がある。
特別養護老人ホーム（90床）、ショートステイ（10床）、ケアハウス（30部屋）
居宅介護支援事業所、地域包括支援センターが併設されている。

〔 取り組んだ課題 〕

- ・入院、退院の繰り返しにより皮膚の赤みの出現にとどまらず、褥瘡に至ってしまうことが度々見られる様になり、ケアワーカーの皮膚疾患に対する意識の向上を図る意味で継続的に必要であると思われた為。
- ・褥瘡の治癒に関しての他職種（医務）との連携の円滑化、ケアワーカー個々の技術の向上と、責任感や理解を引き出す為。

〔 具体的な取り組み 〕

- ・ユニットの各担当を中心とし、褥瘡完治を目指した対応についての検討、及び実施。
- ・医務、ケアワーカーのそれぞれが介護上、又は処置に関わった際に褥瘡の状態や程度の見解を専用の記録用紙に記入する。（他の職員に開示）
- ・毎月第一水曜日に会議を開催。各職種の代表の参加により施設内のご利用者の褥瘡の状態の把握、完治に向けての対応が適切に行われ、軽快しているかの確認を行っている。
必要に応じ各担当ケアワーカーに意見や助言をする。

- ・毎月末に対象ご利用者の褥瘡部の写真を撮影、日頃の対応の成果が現れているか確認の材料としている。（他様々なエアマットやクッション等使用）（体位交換の実施）
- ・対象者29名

〔 活動の成果と評価 〕

- ・各ケアワーカーの担当ご利用者に対する意識（責任感）の向上。
- ・考え、実施することで成果として現れるということの達成感を得ることにより、積極性やチームワークの大切さを認識できるようになってきている。
- ・ケアの向上によるご利用者の身体・精神的苦痛の軽減や信頼関係が図られている。
- ・対象者29名中20名が3ヶ月で完治した。

〔 今後の課題 〕

- ・目標達成後のモチベーションの維持。
- ・再発予防の為の対応の維持・継続。

〔 参考資料など 〕

- ・特になし。